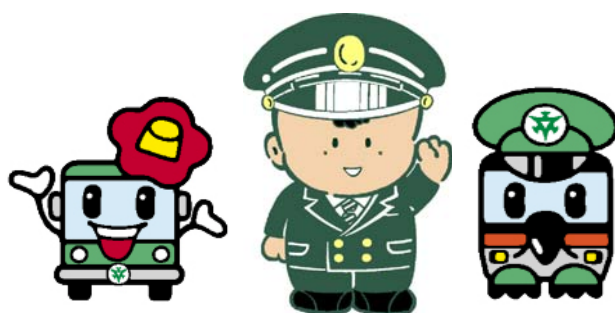


平成19年度 交通局運営方針

すべてはお客様のために

～お客様に愛され、信頼される市バス・地下鉄をめざして～



平成19年4月
京都市交通局

京都市交通局では、きめ細やかに張り巡らした市バス路線と市内の東西及び南北を結ぶ大動脈である地下鉄で、日常生活に欠かすことのできない生活の足として、また、観光で京都を訪れる方の便利でお手ごろな公共交通機関として、皆様のくらしを毎日支えています。



市バス事業の概要



市バスは、73系統 750台のバスが市内を網の目のように運行し、1日で地球を2周する約 7万 8,000 kmを走り続け、毎日約 30万 8千人のお客様にご利用いただいています。これは、市内のバス交通のうち約 85%を占めており、まさに市内交通の中心的な役割を果たしています。

しかし、お客様のご利用が少なく、民間バス並みのコストで運行しても赤字となる、いわゆる「生活支援路線」の維持が厳しくなっていることから、どのようにして確保していくかが課題となっています。



地下鉄事業の概要



地下鉄は、都市空間を有効に活用しつつ、地域の発展と活性化に極めて大きな効果をもたらすとともに、CO₂排出量が自家用車の約 20分の 1であり、地球環境にも大変優しい公共交通機関です。京都市の地下鉄は、烏丸線と東西線を合わせて 28.8 kmの路線で、2路線、37編成、222両で毎日地球1周を超える4万 9,000 kmを運行し、毎日約 31万 5千人のお客様を安全・確実にお運びしています。

しかし、その便利な地下鉄も、1 km伸ばすのに 200億~300億円もの巨額の建設費がかかることから、その債務をどのようにして返済していくかが課題となっています。



平成19年度の1年間、交通局では、



「すべてはお客様のために」を合言葉に…



平成18年6月に策定した「京都市交通事業第2次アクションプログラム」に基づき、一層の経営健全化を推進するとともに、市バス・地下鉄の安全運行の確立や積極的な増収・増客に取り組み、お客様満足度日本一のサービス向上を目指します。



本年度中の開通を目指して整備を進めてきた東西線二条～天神川の延伸を、当初の予定よりも2箇月早め、平成20年1月に開通させます。



開通に併せて、市バス路線を市バスと地下鉄のネットワークを生かした利便性の高いものに再編するとともに、観光客、通学輸送等の強化や「生活支援路線」を全力で維持するための「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」を引き続き実施します。



地下鉄全線でPiTaPaなどのICカード乗車券の利用サービスを4月から開始していますが、さらに、京都市独自のクレジットカード機能付きICカード「京都びらすOSAKA PiTaPa」を発行し、商業施設との連携を図るなど、一層のサービス向上に努めます。

- 安心して利用していただけるよう、より安全な市バス・地下鉄を目指します。
- 人件費・経費の削減や、更なるサービスの向上により、民間のバスや鉄道事業者に負けない事業運営を目指します。
- 職員の接遇マナーアップにより、市民に愛される市バス・地下鉄を目指します。
- 市バス・地下鉄の各施設のバリアフリー化や、環境に配慮したバス車両や燃料の導入など低公害化の取組を進め、公共交通優先型の「歩くまち・京都」の実現に貢献する人や環境に優しい市バス・地下鉄を目指します。



1 安全・安心・快適な市バス・地下鉄の運行

～“安全第一”と“快適”をモットーに～

… 1ページ

2 お客様の増加，収入増のための積極的な営業推進

～ますます便利で魅力的に～

… 5ページ

3 経営健全化へ向けた取組の推進

～市民の足を守る強い決意をもって～

… 9ページ

4 職員の育成と案内・相談の充実によるお客様第一のサービス提供

～お客様満足度“日本一”を目指して～

… 13ページ

5 人や環境にやさしい公共交通優先型の社会への貢献

～「歩くまち・京都」の新しい価値観の創造へ～

… 15ページ

1 安全・安心・快適な市バス・地下鉄の運行

(1) 市バス・地下鉄の安全対策の推進 【自動車部運輸課、高速鉄道部営業課・運輸課・施設課】

⇒ 公共交通を安心して利用していただけるよう、より安全な市バス・地下鉄を目指して取組を進めます。

19年度予算額は
2億2,482万円です。



19年度は…

- 市バス・地下鉄それぞれに新たに設置した「安全統括管理者」のもと、輸送の安全を確保するための遵守事項を定めた「京都市乗合自動車安全管理規程」及び「京都市高速鉄道安全管理規程」に基づき、安全に関する管理体制の更なる強化を図ります。
- 市バスでは、「安全運行推進担当」を新設し、管理の受委託先の事業者を含め、営業所に対する事故防止の指導、徹底を行います。
- 地下鉄では、昨年に設置した「安全運行管理官」を運行に関する責任者として、引き続き安全の確保に努めるとともに、消防局と協力して設置した「京都市高速鉄道防火安全対策委員会」等を中心に災害やテロを想定した訓練の実施や対応マニュアルの整備を行うなど、より安全な地下鉄を目指した取組を進めます。
- 地下鉄駅での火災対策として、ホーム階とコンコース階の間に、防火戸等を順次設置していきます。(平成17年度～21年度で実施、19年度は京都、小野、糺辻、山科の4駅に設置予定)

18年度の主な取組

- ・管理の受委託業者を含む「全市バス安全運行推進会議」の新設
- ・全営業所に副所長を配置
- ・市バス運転士の実技運転研修受講者 127人受講
- ・地下鉄の運行に関する責任者として「安全運行管理官」を設置
- ・火災対策訓練の実施
平成19年3月 二条駅にて列車火災を想定した訓練を実施
- ・地下鉄駅への防火戸等の設置 4駅に設置(四条、五条、二条城前、二条)
- ・地下鉄烏丸線に乗り入れている近鉄車両を含め、烏丸線を運行しているすべての車両に車両間転落防止装置を設置

(2) 市バス路線・ダイヤの改善 【企画総務部企画課, 自動車部運輸課】

⇒ お客さまにお乗りいただきやすい市バス路線・ダイヤにします。



19年度は…

○平成20年1月に予定している地下鉄東西線天神川延伸事業の竣工・新駅開業に伴い、市バス系統の新駅への接続や右京区の南北を結ぶ路線の整備等、効率的かつ利便性の高い市バス路線網の構築に取り組みます。

○道路交通事情に見合うよう、区間運転時分等を見直し、お客様がよりご利用しやすいダイヤ設定に努めます。

18年度の主な取組

- ・観光系統の増強（5号, 101号, 206号）
- ・通学輸送の増強（快速6号, 快速15号, 快速202号, 快速208号）
- ・通勤などの輸送の増強（3号, 28号, 46号, 南2号）
- ・遅れの生じにくいダイヤ設定（区間運転時分の見直しなど）

(3) 市バスの走行環境改善による定時性の確保

【企画総務部企画課, 自動車部運輸課, 高速鉄道部運輸課】

⇒ 市バスが遅れずに走れるように、バス専用レーンの確保などに取り組みます。

19年度予算額は
1,000万円です。



19年度は…

○走行環境悪化の大きな要因の一つである違法駐停車車両の排除に向けて、現地調査に基づいた所轄警察署への要望活動に取り組みます。

○市民やドライバーに対する啓発活動として、京都府警と連携した「市バス走行環境改善キャンペーン」を月1回実施します。

○観光シーズンには、引き続き重点取組として主要駅、バス停留所等での旅客案内サービスを実施するとともに、特にピーク時には違法駐停車等による道路混雑を解消するための啓発活動を行います。

18年度の主な取組

- ・公共車両優先システム（PTPS）…累計 11.5km設置（平成19年3月末現在）
- ・バス専用レーンの設置…総延長91.2km（平成19年3月末現在）
- ・観光シーズンにおけるお客様へのご案内と特別警戒…延べ1,241人参加（平成18年度実績）
- ・毎週金曜日、四条等で職員の立地による啓発活動…延べ384人参加（平成18年度実績）
- ・走行環境改善担当を設置し、違法駐停車車両の排除に向けて、現地調査と所轄警察署への要望活動を展開
- ・走行環境改善・バス専用レーンPRチラシを作成し、運転免許試験場・市バス案内所等関係各所で配布
- ・京都府警と連携した「市バス走行環境改善キャンペーン」を実施（平成19年2月16日に四条通、3月16日に河原町通で実施）

(4) バス待ち環境の改善

【企画総務部総務課、自動車部技術課、高速鉄道部営業課】

⇒ バス停へのバスロケーションシステムや上屋・ベンチなどの設置や、地下鉄駅への市バス接近表示器の設置等を行い、お客様に快適なバス待ち環境を提供します。

19年度予算額は
3,982万円です。



19年度は…

○バスロケーションシステムを新たに8基設置します。

○市バス接近表示器を地下鉄駅に新たに3基（京都市役所前駅、二条駅、二条城前駅）設置します。

○バス停留所に上屋やベンチを設置します。

今までの主な取組

- | | |
|--------|----------------------------------------------------------------------------|
| 平成2年度 | バス総合運行システム・バスロケーションシステムを一部運用開始
（桂駅西口、京都駅前のりば、西大路通、下鴨・河原町通） |
| 平成5年度 | 今出川通、東山通などで運用拡大（42基） |
| 平成6年度 | 竹田街道、九条通などで運用拡大（66基） |
| 平成7年度 | バスロケーションシステムの運用拡大（停留所36基、公共施設型5基）
以後、順次増設し、現在250基（公共施設内6基除く、平成19年3月末現在） |
| 平成16年度 | 市バス接近表示器を今出川駅に試行的に設置 |
| 平成18年度 | 市バス接近表示器を3駅（丸太町、四条、東山）に設置し、運用開始 |

(5) ITの活用による情報提供

【企画総務部総務課】

⇒ ホームページやモバイル端末などを活用し、情報を迅速かつ的確に提供することで、お客様の利便性向上を図ります。

19年度予算額は
600万円です。



19年度は…

○交通局ホームページの更なる充実に努めます。

○パソコンや携帯電話から利用できる市バス・地下鉄インターネット経路検索サービス「洛ナビ」を導入します。

18年度の主な取組

- ・ホームページの発信内容の見直しを行うとともに、新規情報を追加（59ページ分の追加）
- ・産業観光局の「京都界わい観光案内システム」とポケロケ情報との連携
- ・修学旅行生向けのホームページ「きょうと修学旅行ナビ」で市バス・地下鉄の利用方法や便利な乗車券等の情報を発信

(6) 分かりやすい案内表示への改善

【企画総務部企画課, 自動車部営業課・運輸課, 高速鉄道部営業課・運輸課】

⇒ 市バスや地下鉄の案内表示を工夫し、すべてのお客様に分かりやすく利用しやすいように改善します。

19年度予算額は
3,484万円です。



19年度は…

○よりお客様がわかりやすい市バス・地下鉄の路線図を発行します。

○地下鉄烏丸線4駅（五条, 九条, 十条, くいな橋）の出入口のシンボルマークを4箇国語表示に変更します。

○地下鉄東西線各駅の階段手すり点字表示を改修します。

18年度の主な取組

- ・地下鉄4駅（国際会館, 北山, 九条, 竹田）に地下鉄・市バス乗継案内板を設置（平成18年度までに設置予定の14駅に全て設置完了）
- ・地下鉄烏丸線各駅の階段手すり点字表示を改修
- ・非常停車ボタンの案内表示を分かりやすく改修
- ・地下鉄烏丸線8駅（国際会館, 北山, 北大路, 鞍馬口, 今出川, 丸太町, 四条, 烏丸御池）の出入口シンボルマークを4箇国語表示に変更

2 乗客増、収入増のための積極的な営業推進

(1) 地下鉄の増収・増客対策の実施

【企画総務部企画課、高速鉄道部営業課】

⇒ 駅の空きスペースを使つての「駅ナカビジネス」の展開を進め、駅の魅力アップと増収を図るとともに、駅周辺地域の特性に応じた増客対策を推進します。

19年度予算額は
2,000万円です。



19年度は…

- 平成19年4月に東西線山科駅構内に現金自動預払機（ATM）を設置しました。さらに山科駅での利用状況を勘案して、他の主要駅への拡大設置を検討し、地下鉄をご利用のお客様の利便性向上と収入増に努めます。
- 烏丸線京都駅に女性向雑貨店を設置し、駅の利便性を向上させるとともに、乗降客の多い駅でも「駅ナカビジネス」の展開を他の業態も含め検討します。
- 観光名所や公共施設など駅周辺の特色ある施設とタイアップし、駅ごとの魅力を高め、地下鉄の利用促進に努めます。
- クレジット機能付きICカード「京都びらすOSAKA P i T a P a」の発行を機に、商業施設との連携を図り、今後、京都市内等の商店街で構成する「きょうと情報カードシステム（KICS）」の「ルール&ショッピング」の取組への参画に向け準備を進めます。

※ルール&ショッピング…KICS加盟店でクレジット機能付きP i T a P a等を使って買物をする時、当日利用された鉄道運賃をお客様にキャッシュバックするもの。

今までの主な取組

- ・「駅ナカビジネス」の展開
 - 平成15年3月 「ミニ・コンビニ 都くん」四条駅店 開店
 - 平成16年4月 「フレッシュジューススタンド」京都駅店 開店
 - 平成19年3月 コンビニエンスストア「洛マート」北大路駅店 開店
- ・平成18年10月 京都駅構内イベントスペースの活用を開始
- ・平成19年3月に丸太町駅・烏丸御池駅周辺地域において「地下鉄で春のお出かけキャンペーン」の実施（クーポンつきの駅周辺マップを配布）

(2) 広告料収入増対策の実施 【企画総務部企画課】

⇒ 市バス・地下鉄の既存の広告枠の活性化と新たな広告の導入を推進し増収を図ります。

19年度広告収入予算額は
10億6,000万円です。

※内訳 バス 4億1,800万円
地下鉄 6億4,200万円



19年度は…

- 「広告販売促進キャンペーン」に継続して取り組み、平成20年度までに広告料収入の1億円増収に向け積極的に取り組みます。
- 新たに無料情報誌ラック広告付AEDの全駅設置、「京都びらすOSAKA PiTaPa」告知タイアップフラッグ広告の実施を推進し、増収に積極的に取り組みます。
- 既存広告設置場所の拡大や広告の種類を増やすなど活性化を図ります。
- 電照看板の複数一括契約割引を継続するとともに、長期間空枠となっている枠についてセット割引を実施するなど活性化に取り組みます。

18年度の主な取組

- ・新規広告媒体の導入（平成19年3月末現在）
 - アドコラム（柱巻）広告（平成18年4月～） 2本
 - ポスターボード（平成18年5月～） 10枠
 - カード券面広告（平成18年11月～） 1件
 - ホームページのバナー広告（平成19年3月～） 12枠
- ・「広告販売促進キャンペーン」の実施（平成18年10月～）
- ・ラッピングバス所有台数 42両（平成19年3月末現在）

(3) 運賃制度の改善 【企画総務部企画課】

⇒ お客様にとってシンプルで分かりやすく、ご利用いただきやすい乗車券を発売します。



19年度は…

- 地下鉄事業では、定期入れや財布からカードを出すことなく改札機にかざすだけで通過できる、便利な「PiTaPa」等のICカード乗車券の利用サービスを平成19年4月1日から開始しました。これに併せ、「PiTaPa」で地下鉄をご利用いただいた場合の独自の運賃割引サービスとして「利用額割引」を新たに実施しました。
- 他都市からのお客様にもお使いいただきやすい多彩な企画乗車券（いい古都チケット、京阪みやこ漫遊チケット、京都観光一日乗車券「京めぐり」、奈良・斑鳩 1day チケット、京都地下鉄・京阪大津線 1day チケットなど）を、引き続き他社局と提携して観光等のシーズンに応じて発売します。
- 市バス通学学期定期券（1学期券）の通用期間を2日拡大しました。

18年度の主な取組

- ・市バス通学学期定期券（1学期券）の通用期間を1日拡大
- ・春・秋の期間限定で発売していた「京都地下鉄・京阪大津線 1day チケット」を、平成19年3月から春・夏・秋のシーズンを通して発売
- ・ICカード乗車券への対応が可能な複数枚対応改札機への更新（平成19年3月現在 累計177基中90基設置）

(4) 市民に愛される市バス・地下鉄を目指した

PR活動の実施

【企画総務部企画課, 高速鉄道部営業課】

⇒ 様々な取組を通じて市バス・地下鉄を積極的にPRし、旅客増を目指すとともに、親しみの持てる市バス・地下鉄を目指します。



19年度は…

- 「アートパフォーマンス in 山科駅」を毎月1回開催します。
- 「区民ふれあいまつり」に参加し、市バス・地下鉄をPRします。
- 「スルッとKANSAIバスまつり」に参加し、市外のお客様に対しても、市バス・地下鉄をPRします。
- 市の事業とタイアップし、お客様の増加を目指します。
- 市バス・地下鉄のオリジナルグッズを販売します。

18年度の主な取組

- ・地下鉄東西線山科駅の「音の広場」で毎月1回（全12回）「アートパフォーマンス in 山科駅」を開催
- ・区民ふれあいまつりに参加（東山区, 醍醐支所, 中京区）
- ・スルッとKANSAIバスまつりに参加（平成18年9月17日）
- ・市の事業とのタイアップ（「京都・東山花灯路」, 「京都・嵐山花灯路」, 「伝統産業の日」）
- ・「スルッとKANSAI 電車・バスカレンダー」, 標柱デザインうちわの発売

(5) 観光客の誘致による増客対策の実施 【自動車部営業課・運輸課】

⇒ 観光客5,000万人を目指す「新京都市観光振興推進計画」に基づき、積極的に旅客誘致を図るとともに、より多くの観光客に市バス・地下鉄による快適な京都観光を楽しんでいただけるよう利便性の向上に取り組みます。

19年度予算額は
8,480万円です。



19年度は…

- 平成19年3月実施の市バス系統の見直しにおいて、観光系統（5号，101号，206号）の運行回数を増回し、観光客の利便性の向上に取り組んでいます。
- 定期観光バス事業において、交通局保有のレトロ車両を活用するとともに、参加体験型観光を取り入れるなど、魅力のあるコースを設定し、乗客増に取り組めます。
- 観光系統「洛バス」（100号，101号，102号）の利用促進に向け、交通局ホームページや「おふたいむ」等へ路線や沿線の情報を掲載するなど、PRの強化を図ります。

今までの主な取組

- ・洛バスの運行開始（平成17年1月～）
- ・洛バスマップの作成（平成17年度）
- ・洛バスPRチラシの作成，配布（平成18年3月）
- ・市バス専用一日乗車券の券面デザインに洛バスを掲載（平成18年度～）
- ・定期観光バス事業の利用促進策の取組
 - 発売額の値下げ…平成15年度よりご利用の多いコースを中心に1,000円程度値下げ
 - グループ割引制度の拡大…平成15年度よりグループ割引の対象を8名以上から4名以上とし，小グループへのサービス強化
 - 食事有無の希望選択制導入…自由散策時間における食事箇所が比較的少ないコースを中心に，平成17年度より2コース（醍醐寺と宇治浪漫コース及び比叡山と大原三千院コース）でお客様の「昼食付」・「昼食なし」の選択制を実施し，18年度より1コースを追加
 - 「京都おこしやす大学」との連携…平成18年12月より，京都市の観光部局の体験型観光施策である「京都おこしやす大学」との連携を図り，「京の冬の旅」コースを「京都おこしやす大学」の旅行プランへ組み入れ

3 経営健全化へ向けた取組の推進

(1) 「管理の受委託」の拡大 【自動車部営業課】

⇒ 交通局が運賃・ダイヤ・路線等の決定に責任を負う公営としての長所を活かしながら、民間並みのコストで運営を行うため、運行を民間バスに委託する「管理の受委託」を行い、市バスの経営体質を強化します。

19年度予算における削減効果額は25億円です。



19年度は…

○平成19年3月に西賀茂営業所の一部系統を民間バス事業者に委託しました。これにより、全国初の取組であった管理の受委託は、当初の計画を1年前倒して、国で上限と定められている事業規模全体の2分の1（市バス車両750両のうち375両）までの拡大を達成しました。財政効果は19年度の1年間で約25億円、受委託開始からの累計で約100億円にのぼり、こうした取組により、バス事業においては3年連続で黒字決算とすることができました。

今までの主な取組

目標：750両のうちの2分の1（375両）の受委託

平成12年3月～	横大路営業所の「管理の受委託」実施	延べ委託車両数	82両
平成16年3月～	洛西営業所の「管理の受委託」実施	延べ委託車両数	205両
平成17年3月～	九条営業所の一部の「管理の受委託」実施	延べ委託車両数	262両
平成18年3月～	梅津営業所の一部の「管理の受委託」実施	延べ委託車両数	324両
平成19年3月～	西賀茂営業所の一部の「管理の受委託」実施	延べ委託車両数	375両

(2) 総人件費の抑制 【企画総務部職員課】

⇒ 職員数の削減や給与制度の厳正な運用により、総人件費の抑制に努めるなど、民間に負けない経営努力を行い、運行コストの削減を目指します。



19年度は…

○引き続き、職員数の削減、管理職手当の減額、休日勤務手当の解消により、更なる人件費の削減を行います。

今までの主な取組 （ルネッサンスプラン期間中における職員数の削減実績）

平成14年度1,807人⇒平成18年度1,293人 **正規職員514人削減**

削減計画	14.5.1(a)	15.5.1	16.5.1	17.5.1	18.5.1(b)	(b)-(a)
市バス事業	1,212人	1,020人	937人	871人	784人	△428人
地下鉄事業	595人	564人	551人	535人	509人	△86人
合計	1,807人	1,584人	1,488人	1,406人	1,293人	△514人

・嘱託化（若年嘱託の採用等）や市バス営業所の「管理の受委託」の拡大による職員の削減に取り組んできました。

(3) 経費の削減 【企画総務部財務課】

⇒ あらゆる経費を減らすなど、民間に負けない経営努力を行い、運行コストの削減を目指します。

19年度予算における
経費削減額は
9億2,300万円です。



19年度は…

○平成20年度時点で、平成14年度予算比1割（9億800万円）の削減となるよう、事務事業評価の結果を活用し、委託業務の内容等の点検を行い、経費削減を図ります。

今までの主な取組 （ルネッサンスプラン期間中の削減実績）

平成18年度での削減実績…8億2,100万円
※内訳 バス 3億3,300万円
地下鉄 4億8,800万円

(4) 「生活支援路線」の効率的・効果的な確保策の実施

【企画総務部企画課・財務課、自動車部営業課】

⇒ ご利用が少なく運営コストを民間並みに縮減したとしても収支が赤字となる「生活支援路線」について市民の足を守るため、全力で維持を図ります。

19年度における一般会計からの
繰入額（生活支援路線補助金）は
11億6,700万円です。



19年度は…

○「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」の実施などコスト削減と乗客増対策に取り組むとともに、市の一般会計から「生活支援路線」に対する補助金を受け、市民生活に欠かせない市バス路線のネットワークを維持していきます。

○民間事業者と連携して平成17年7月から実施している「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」について、平成19年1月に「生活支援路線モデル実証実験検討会」から提出された「中間検証」を踏まえ、4月から「小型バス路線の拡大」及び「小型バス・ジャンボタクシーの併用」という新たな取組を行います。また、これまでの実験の成果を踏まえ、他の生活支援路線への展開を検討します。

今までの主な取組

平成14年度 「京都市交通事業審議会」に「生活交通」の確保方策やサービス水準について諮問
平成15年度 「京都市交通事業審議会」から、今後も公営企業として維持していく旨の提言が提出される。
平成16年度 市の一般会計において繰入（10億1,500万円）
「京都のバス事業を考える会」において、生活支援路線の確保方策及び安全・安心・快適なバスサービスのあり方について協議→中間答申（平成17年1月）→最終答申（平成17年4月）
平成17年度 市の一般会計において繰入（10億5,400万円）
「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」実施（平成17年7月～）
平成18年度 市の一般会計において繰入（11億2,100万円）
「小型バス・ジャンボタクシー代替モデル実証実験」は4月から一部経路やダイヤの修正を行い、継続実施
「生活支援路線モデル実証実験検討会」から「中間検証」の提出

(5) 地下鉄事業の長期収支改善

【企画総務部財務課、高速鉄道部運輸課】

⇒ 速くて便利な地下鉄ですが、建設費が巨額で、その返済が大きな負担となっていることから、「地下鉄事業経営健全化計画」を着実に推進し、地下鉄の財政基盤の強化を図ります。

19年度予算における一般会計からの経営健全化のための出資額（収入）は74億1,000万円です。また、18年1月の運賃改定に伴う一般会計からの地下鉄利用者負担緩和支援補助金（収入）は3億3,000万円です。



19年度は…

○国の地下鉄事業経営健全化対策制度を活用して策定した「地下鉄事業経営健全化計画」（計画期間：平成16年度～25年度）の着実な推進を図るため、①交通局の人員費、経費の削減や建設費の削減、②計画的な運賃改定の実施、③市から総額約640億円（平成19年度は74億1,000万円）の出資金により、不良債務の抑制を図り、交通局の財政基盤を強化します。

○駅職員業務の一部を民間事業者に委託し、更なる経営健全化に努めます。平成19年度から平成21年度までの3年間で14駅の駅職員業務を委託することとしており、平成19年度には7駅（十条、くいな橋、蹴上、東山、二条城前、西大路御池、太秦天神川）で委託を実施し、1億円の財政効果を見込んでいます。

今までの主な取組

・「地下鉄事業経営健全化計画」に基づく一般会計からの健全化出資金（平成16年度～）

平成16年度決算 57億2,500万円

平成17年度決算 67億3,900万円

平成18年度予算 68億2,000万円

・運賃改定の実施

地下鉄運賃の推移

昭和59年 4月 初乗り運賃 120円→140円

昭和63年10月 // 140円→160円

平成 4年 4月 // 160円→180円

平成 8年 9月 // 180円→200円

平成18年 1月 // 200円→210円

・運賃改定の実施にあわせた更なる健全化の取組と一般会計からの支援

交通局の主な取組内容

・駅職員業務の一部民間委託化による60人の職員削減

・東西線二条～天神川間の総建設費の削減

一般会計による地下鉄利用者負担緩和支援補助金の創設

・運賃改定にあたってお客様への負担軽減と新たなサービスを実施

地下鉄一日乗車券（大人600円、小児300円）や1,000円で1,100円利用できるトラフィカ京カード1,000円カードの新発売やあわせて小児券の新設等

(6) 外郭団体改革の推進 【企画総務部総務課】

⇒ 交通事業運営に密接に関係する外郭団体に対する関与のあり方を見直すとともに、団体の効率化・活性化を図ります。



19年度は…

○交通局が所管する外郭団体の平成20年度までの統廃合を目指して、順次取組を進めます。

18年度の主な取組

- ・外郭団体の統廃合に向けた取組の実施
- ・外郭団体の委託業務のうち、一部業務で契約方法を見直し及び、平成19年度に見直す業務について検討の実施

4 職員の育成と案内・相談の充実によるお客様第一のサービス提供

(1) お客様接遇の向上 【企画総務部総務課・研修所】

⇒ お客様により一層満足していただける市バス・地下鉄を目指し、市バス・地下鉄案内所の機能の充実を図るとともに、職員のお客様に対する接遇の向上に取り組みます。



19年度は…

- お客様を第一とした職員の接遇向上を目指し、交通局の管理職員が市バス・地下鉄乗務員及び駅職員の接遇状況について調査を行う「市バス・地下鉄サービスアップ優秀職員モニター制度」を引き続き実施します。
- 東西線延伸（二条～天神川間）の開通に伴い、嵐山方面への乗継や観光客向けの案内機能の一層の充実を図ります。

18年度の主な取組

- ・市バス・地下鉄サービスアップ優秀職員モニター制度
平成18年1月～12月 延べ調査回数 9,951回

(2) 職員研修と「人事評価制度」の実施 【企画総務部職員課・研修所】

⇒ 市バス・地下鉄が、将来にわたって愛され信頼される「市民の足」となるよう職員研修を実施するなど、職員の更なる意識向上を目指すとともに、「人事評価制度」を実施し、更なる業務改善と管理監督職員の能力・意欲の向上を図ります。

19年度予算額は
258万円です。



19年度は…

- 全職員を対象とする所属研修では、交通局の現状を再認識し、経営感覚に優れ、お客様のニーズに能動的に対応できる職員の育成を図ります。
- 市バス運転士研修では、研修用模擬コースによる安全運転実技やお客様への対応実習などの取組を行います。
- 地下鉄職員研修では、事故防止や異常時の処置訓練、お客様への対応実習などの取組を行います。
- サービス管理体制の強化を図るため、研修とサービス指導の徹底を担当する部長級ポストを新設しました。
- 平成18年度に実施した「業績評価」に、新たに「能力評価」を加えた「人事評価制度」を実施することで、より効率的・効果的な業務遂行と計画的な人材育成、適材適所の人事配置に取り組んでいきます。

18年度の主な取組

- ・所属研修（全職員対象）延べ受講者数 1,990人（受講率 100%）
- ・市バス運転士セミナー（3年サイクルで実施）延べ受講者数 207人（受講率 100%）
- ・地下鉄定期教育訓練 延べ受講者数 4,458人（受講率 100%）
- ・業績評価制度 対象職員 部長級7人、課長級34人

(3) 市民とのパートナーシップの推進 【企画総務部総務課・企画課】

⇒ お客様から幅広く意見・要望を受け付けることや関係NPO団体との懇談により、お客様のニーズの把握に努めます。



19年度は…

- 市で年に2回実施している「市政総合アンケート」を活用して、バスの利用状況や将来のバス事業のあり方を調査し、その結果を路線バス全体の活性化に反映します。
- 手紙や電子メールなど様々な手段で「お客様の声」をお聴きします。
- お寄せいただいた「お客様の声」のうち、即座に改善が必要なものはすぐに対応します。また、「声」の内容は職員にも周知し、事業に反映できるよう生かします。
- 連絡先の分かる方に対してはすべて書面や電話で回答します。

今までの主な取組

- ・平成17年1月 お客様から多く寄せられるご意見とその回答について、「よくあるご質問」として交通局ホームページ上に掲載
 - ・平成17年3月 交通局ホームページ上で「お客様の声」の受付を開始
 - ・「お客様の声」の受付件数
- | | |
|--------|--------|
| 平成16年度 | 435件 |
| 平成17年度 | 1,407件 |
| 平成18年度 | 1,290件 |

5 人や環境にやさしい公共交通優先型の社会への貢献

(1) 地下鉄の延伸 【建設室総括担当】

⇒ 国の道路財源の活用を図り徹底したコスト削減を行うとともに、工事の安全管理に努め、東西線(二条～天神川間)の延伸の早期開通を目指します。

19年度予算額は
116億6,800万円です。

※建設局事業の道路補助対象分
(6億1,300万円)を含む。



19年度は…

○地下鉄東西線(二条～天神川間)の延伸区間の当初予定より2箇月早い、平成20年1月の開通を目指し、工事の安全管理や徹底したコスト削減に努めるとともに、駅の内装、電気設備や出入口などの各種建築・設備等工事や車両の試運転等を行うなど、開通に向け、より一層の事業推進に取り組みます。

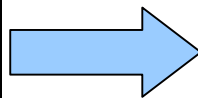
○お客様のご提案をもとに、分かりやすく親しまれる駅名として、仮称としていた駅名を「西大路御池」「太秦天神川」に決定しました。

今までの主な取組

・地下鉄東西線(二条～天神川間)

総事業費

事業免許取得時 (13年度)
745億円



点検見直し時 (17年度)
525億円

当初計画より
約220億円削減できる見通しに！！

(主な削減理由)

天神川駅周辺整備事業との同時施行や建設発生土の再生利用による工事費削減

物価上昇率の変化や企業債利息の差等による減

現有車両の効率的な運用により、計画で見込んでいた2編成の車両増備の見直しによる減

平成13年 5月 9日 鉄道事業許可取得

平成14年11月 8日 工事着手

平成17年12月 全区間のトンネルが貫通

平成19年 3月31日 土木工事全体の進捗率は98.7%

(平成20年1月開通予定)

(2) 「歩くまち・京都」交通まちづくりプランによるTDM施策との連携

【企画総務部企画課、自動車部営業課・運輸課】

⇒ パーク＆ライドをはじめとするTDM(交通需要管理)施策と連携し、「歩くまち・京都」の実現を目指します。



19年度は…

- 京都市が都心地域の抜本的な交通環境改善として推進する「歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会」に引き続き積極的に参画します。
- 「嵐山交通対策研究会」「東山交通対策研究会」と連携し、秋の観光シーズンに行われるパーク＆ライドなどの取組に協力するなど、公共交通優先型の「歩くまち・京都」の実現に向け、交通事業者としての役割を積極的に進めます。特に、東山地区では、昨年度に引き続き、春と秋の観光シーズンに東山地区と京都駅を結ぶ「東山シャトルバス」の運行や、道路混雑時には、市バス(5号、100号、206号の東山三条→京都駅前)から地下鉄(東西線東山駅→烏丸線京都駅)への振替輸送などに取り組みます。

18年度の主な取組

- ・「歩いて楽しいまちなか戦略」推進協議会への参画
- ・嵐山観光地交通対策及び東山交通社会実験への参加(春秋の観光シーズンに「東山シャトルバス」の運行、東山駅での振替輸送の試行実施など)

(3) 市バス・地下鉄施設のバリアフリー化の推進

【自動車部技術課・高速鉄道部施設課】

⇒ ノンステップバス(床の低いバス)の導入や、地下鉄駅での多目的トイレへの改修などにより、バリアフリーを進め、人にやさしい市バス・地下鉄を目指します。

19年度予算額は
23億5,150万円です。



19年度は…

- ノンステップバス等低床型車両を83両導入します。(今まで導入したバス車両をあわせると全車両の約70%となります。)
- 従来の車いす対応型トイレについて、地下鉄2駅(竹田、三条京阪)で、オストメイト(人工肛門等)の方にもご利用いただける多目的トイレに改修します。
- 地下鉄東西線各駅の階段手すり点字表示を改修します。

18年度の主な取組

- ・市バスのバリアフリー化
ノンステップバス導入数 100両
累計 454両 (平成18年度末現在、全750両の約61%)
- ・地下鉄のバリアフリー化
多目的トイレへの改修 3駅(今出川、醍醐、山科)で実施 累計10駅
- ・地下鉄烏丸線各駅の階段手すり点字表示を改修
- ・地下鉄京都駅南口改札前の連絡通路のスロープの勾配を改善

【参考】各都市交通局のノンステップバス導入状況(平成18年度末)

都市名	京都市	仙台市	東京都	川崎市	横浜市	名古屋市	大阪市	神戸市
導入率(%)	60.5	8.4	66.1	40.8	40.9	43.0	45.5	35.1

(4) 環境保全対策の推進 【企画総務部総務課, 自動車部技術課】

⇒ 低公害, 低燃費のバス車両の導入を進めるとともに, 交通局本庁舎において, ISO14001の認証取得に向け取り組みます。

19年度予算額は
23億2,577万円です。



19年度は…

○平成19年度のノンステップバス等低床型車両83両の内訳については, 天然ガスバスが3両, アイドリングストップバスが80両の導入になります。

○バイオディーゼル燃料(廃食用油を再生した「みやこ・めぐるオイル」)を積極的に導入し, 地球環境の保全に貢献します。

○引き続き市バス2両で, バイオディーゼル燃料100%使用による走行実験を実施します。

○平成19年夏頃に交通局本庁舎において, ISO14001を認証取得する予定です。

18年度の主な取組

- ・天然ガスバス導入数 3両 (全750両中 36両)
- ・アイドリングストップバス導入数 105両 (全750両中476両)
- ・DPF設置車両数 11両 (全750両中 51両)
- ・バイオディーゼル燃料使用車両数 93両 (平成18年度末現在)
- ・平成18年5月から市バス2両において, バイオディーゼル燃料100%使用による走行実験を開始
- ・平成19年1月から, ISO14001認証取得に向けた取組を試行実施
- ・平成19年2月を京都市全体で「脱地球温暖化防止キャンペーン」月間とし, CO2削減に向けた取組を推進

【掲載先】

本誌は、交通局のホームページに掲載しておりますので、興味をもたれた方は、下記のアドレスにアクセスしてみてください。

京都市交通局ホームページ

<http://www.city.kyoto.jp/kotsu/>

【お問い合わせ先】

本誌に書かれている内容で何かご不明な点がございましたら、下記の担当課までお気軽にお問い合わせください。

本誌全般

受付時間 平日のみ 8時50分～17時20分

企画総務部企画課

TEL 075-822-9108 FAX 075-822-9247

市バス・地下鉄全般

受付時間 平日・休日とも 8時30分～18時30分

京都市交通局案内所

TEL 075-801-2561

市バス

- | | | |
|-------|----------|------------------|
| ○ 運賃 | 企画総務部企画課 | TEL 075-822-9104 |
| ○ 路線 | 自動車部運輸課 | TEL 075-822-9150 |
| ○ ダイヤ | | |
| ○ 運行 | | |
| ○ 車両 | 自動車部技術課 | TEL 075-822-9155 |
| ○ その他 | 自動車部営業課 | TEL 075-822-9143 |

地下鉄

- | | | |
|-------|----------|------------------|
| ○ 運賃 | 企画総務部企画課 | TEL 075-822-9104 |
| ○ 運行 | 高速鉄道部運輸課 | TEL 075-822-9168 |
| ○ 施設 | 高速鉄道部施設課 | TEL 075-822-9185 |
| ○ 建設 | 建設室総括担当 | TEL 075-822-9176 |
| ○ その他 | 高速鉄道部営業課 | TEL 075-822-9164 |

市バス・地下鉄共通

- | | | |
|---------------------|----------|------------------|
| ○ 財政状況 | 企画総務部財務課 | TEL 075-822-9127 |
| ○ 人件費等 | 企画総務部職員課 | TEL 075-822-9117 |
| ○ 職員研修 | 企画総務部研修所 | TEL 075-643-4601 |
| ○ ホームページ、パートナーシップなど | 企画総務部総務課 | TEL 075-822-9165 |
| ○ イベント、オリジナルグッズなど | 企画総務部企画課 | TEL 075-822-9106 |